

2026年5月22日

報道関係者各位

三井不動産株式会社

北海道の森の木でつくられた絵馬を 700 枚・全長約 84m に連ね、 「最も長い特製絵馬の列」でギネス世界記録™に認定

持続可能な未来への願いを集めた「EMA WISH PROJECT～森とまちを願いでつなぐ～」
サステナビリティイベントを日本橋にて開催

三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:植田俊、以下「当社」)は、北海道の三井不動産グループ保有林と都市をつなぐサステナビリティプロジェクト「EMA WISH PROJECT ～森とまちを願いでつなぐ～」を開催。2026年5月21日(木)、北海道の森の木でつくられた絵馬を全長約84m、700枚の一行に並べて東京・日本橋の特設会場にて掲出し、「最も長い特製絵馬の列/Longest line of custom-made ema」のギネス世界記録™を達成いたしました。



「最も長い特製絵馬の列/Longest line of custom-made ema」のギネス世界記録™を達成
(左より)ギネス世界記録™公式認定員 藤淵文香さん、三井不動産 取締役 海藤明子、なかやまきんに君さん、アンジェリーナ 1/3 さん

本プロジェクトでは、当社グループ保有林の木材から製作した絵馬に、保有林が所在する北海道・旭川市の旭川市立永山南小学校の児童が描いたイラストをあしらい、小学生や地域住民、当社社員に加え、「三井のすずちゃん」こと俳優の広瀬すずさん、タレントのなかやまきんに君さん、ラジオパーソナリティのアンジェリーナ 1/3 さん等の著名人・アスリートなど 700 人が未来への願いを記入しました。約 84 メートルという長さは、2027 年竣工予定の木造賃貸オフィスビル「日本橋本町三井ビルディング & forest」の高さと同等であり、本取り組みは同ビルとも連動したプロジェクトです。

5 月 21 日(木)の記録発表・認定イベントでは、なかやまきんに君さん、アンジェリーナ 1/3 さんをゲストにお迎えし、当社サステナビリティ担当役員である取締役 海藤明子とともに最後の絵馬をかけて最も長い絵馬の列を完成。公式認定員による厳正な審査を経てギネス世界記録™に認定され、公式認定証が授与されました。

■ギネス世界記録™認定内容



記録名：最も長い特製絵馬の列/Longest line of custom-made ema

記録認定：2026年5月21日(木)

認定枚数：700枚

記録保持者：Ema Wish Project

特設ページ：<https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/mokuzai/emawishproject/>

■記録発表・認定イベントレポート① EMA WISH PROJECT プレゼンテーション

イベント冒頭では、取締役 海藤明子より、当社グループが推進する“終わらない森”創りや、サステナビリティに関する取り組みについて説明を行いました。北海道の保有林の森林資源を活用し、「植える→育てる→使う」のサイクルをまわし続けながら、持続可能な森林経営による“終わらない森”創りに取り組んでいることを紹介。また、2027年竣工予定の「日本橋本町三井ビルディング & forest」について、国産木材を活用した国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビルとして開発を進めていることや、木材活用によるCO₂排出量削減への取り組みについて説明しました。

続いて、本プロジェクト担当者による「EMA WISH PROJECT ～森とまちを願いでつなぐ～」に関するプレゼンテーションを実施。会場では、プロジェクトのPRムービーも上映され、北海道の森林風景をはじめ、絵馬の製作工程、北海道旭川市の小学生によるイラスト制作の様子、様々な参加者が願いごとを記入する様子などが映し出されました。



取締役 海藤明子より説明

最後の絵馬掲出に緊張しながらも、なかやまきんに君さんが世界記録達成を後押し

ギネス世界記録™挑戦のクライマックスでは、なかやまきんに君さんも絵馬に自身の願いを記入。ギネス世界記録™挑戦最後の絵馬を掲出する重大任務に緊張を見せる姿に会場が笑いに包まれました。



■記録発表・認定イベントレポート②ギネス世界記録™達成の瞬間

会場となった日本橋江戸桜通り地下歩道には、北海道の保有林の木材から製作された700枚の絵馬が、全長約84メートルにわたり掲出されました。イベントでは絵馬を製作した一連のプロセスを振り返ったほか、小学生やアスリートなど参加者が書いた願いごとの一部も紹介されました。

続いて、ギネス世界記録™公式認定員より認定条件や審査内容について説明が行われた後、取締役 海藤明子、ゲストのなかやまきんに君さんが最後の絵馬掛けを実施。会場内の視線が最後の一枚へと集まる中、「最も長い特製絵馬の列」が完成しました。

その後、公式認定員による最終確認・審査を経て、ギネス世界記録™への認定が正式に発表されると、会場からは大きな拍手が起こりました。北海道の森で育った木に記された700人の願いが連なり、森とまち、人と人をつなぐ本プロジェクトを象徴する瞬間となりました。



ギネス世界記録™への認定が正式に発表

■記録発表・認定イベントレポート③ ゲストによるトーク

ギネス世界記録™認定後には、ゲストによるトークセッションを実施しました。アンジェリーナ 1/3 さんは、自身も参加した北海道旭川市立永山南小学校でのワークショップを振り返り、「5年生の子たちはそれぞれ自分が思い描く“木”を描いてくれて、色んな願いを自分の手で書く姿に胸がギュッとなる瞬間がたくさんあった一日でした。」とコメント。子どもたちが木に触れながら、楽しそうに絵馬製作へ取り組んでいた当日の様子について語りました。



なかやまきんに君さんやアンジェリーナ 1/3 さんらとのトークセッション
なかやまきんに君さん「木も筋肉も、1日では育たない」

なかやまきんに君さんは、会場内の絵馬が北海道の保有林で50年をかけて育った木材から作られていることについて触れ、「50年育った木は15m～20mになると聞いたんですが、私も筋トレ歴が30年ということで、あと20年後には私も20mくらいになりたいと思います。パワー！」とコメント。また、三井不動産株式会社 広報部 ブランド・マネジメントグループの王からは、街の魅力を時とともに育てていく「“経年優化”の街づくりで、森と都市の循環を未来へつなげたい」と今後の林業や都市環境の持続可能性について熱い想いを語りました。

最後の決め台詞には、なかやまきんに君さん節全開で“パワー！”“ならぬ”エマー！”の新ギャグを披露

トークセッションの終盤では、なかやまきんに君さんがイベントテーマにちなみ、世界記録を更新した絵馬とともに渾身のギャグ「世界記録に向けて…エマー！」を披露。この日のために考案した新ギャグに会場は笑いとおどろきに包まれました。また、木を植え、育て、使う循環について「筋トレと同じで、続けることが大事」と語り、三井不動産グループのサステナビリティの取り組みに共感を示しました。



新ギャグを発表するなかやまきんに君さん

■木造賃貸オフィスビル「日本橋本町三井ビルディング &forest」について

2027年1月に竣工予定の「日本橋本町三井ビルディング &forest」は、地上18階・高さ約84メートル・延べ床面積28,000㎡の国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビルです。木造と鉄骨造を組み合わせたハイブリッド構造を採用し、構造材としてグループ保有林約100㎡を含む約1,100㎡の国産木材を使用しています。一般的な鉄骨造オフィスビルと比較して、躯体部分における建設時のCO₂排出量を約30%削減する効果を想定しています。また、内装や仕上げにも木材を積極的に取り入れることで、木ならではのやすらぎとぬくもりを五感で感じられる空間を創出し、木造オフィスだからこそ実現できる「行きたくなるオフィス」を目指しています。

参考：https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2024/0111_01/



■三井不動産グループの“終わらない森”創りについて

当社は北海道を中心に約5,000ha(東京ドーム約1,063個分)の森林を保有し、「植える→育てる→使う」のサイクルをまわし続けながら、“終わらない森”創りに取り組んでいます。これらの保有林では伐採と植林を計画的に繰り返すことで森林の健全な循環を維持しながら、CO₂の吸収・固定といった環境価値の創出にも寄与しています。こうした取り組みにより森林を守り育てるだけでなく、その価値を都市へとつなげる仕組みを構築しています。さらに、保有林で生まれた木材を建築資材として活用することで資源の循環利用を実現するとともに、都市における環境負荷の低減と空間価値の向上を両立。木材を単なる資源としてではなく、都市と自然をつなぐ媒介として位置づけ、その価値の最大化を図っています。

参考：<https://www.mitsuifudosan.co.jp/and forest/>



■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>

・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/

・「& EARTH for Nature」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/>

また、2025年4月に、街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の5つを定めています。本リリースの取り組みは、「& EARTH for Nature」における重点課題の3つに貢献しています。



緑を守り育む



地域の想いをつなぐ



自然資源を循環させる